青森県

水稲新品種「青天の霹靂」のブランド化に向けた普及活動

活動期間：平成26年度～平成27年度

○　青森県では、これまで日本穀物検定協会の米食味ランキングで**「特A」評価を取得した品種は無かった。**

○　良食味・高品質米生産を目指す**「JA津軽みらい特Aクラス米生産研究会」の会員が、県の事業による水稲新系統の現地試験等を担当**し、**農業普及振興室は会員へ重点的に栽培管理指導を実施。**

○　関係機関で構成する**「中南地域『青天の霹靂』生産指導プロジェクトチーム」を設置**し、計画的で効果的な活動を展開。

○　この結果、「青天の霹靂」は**平成28年2月に本ランキングで「特A」評価を取得。**研究会は、さらなる食味・品質の向上を目指す等**意識が向上。**

具体的な成果

1　念願の「特A」評価の取得

■平成27年2月に「青天の霹靂」が**参考品種ながら「特A」評価を取得。**

■平成28年2月には**本ランキングで「特A」評価を取得。**

2　「青天の霹靂」の良質米生産の目標達成

■平成27年には、会員が担当する9か所の「青天の霹靂」技術普拠点ほの玄米タンパク質含有率は、**全て出荷基準の6.4%以下を達成。**うち8か所で生産目標の6.0%以下をクリア。

3　良質米生産技術の地域への波及と研究会員の意識の向上

■**会の**技術普及拠点ほ担当者は、地域での新規作付け者に対し、栽培マニュアル遵守の重要性を啓蒙するなど**地域の良質米生産への指導的役割を担った。**

■「JA津軽みらい特Aクラス米生産研究会」は、平成28年4月から**名称を「津軽みらい農協特A米プレミアム研究会」とし、さらなる食味・品質の上を目指すこととなった。**

普及指導員の活動

平成26年～平成27年

■**「あおもり米『特A』プロジェクト事業」**による水稲稲新系統の現地試験や技術普及拠点ほを担当する**「JA津軽みらい特Aクラス米生産研究会」の会員に、重点的に栽培管理指導を実施。**

■プロジェクトチームの連絡会議を開催して関係機関の意思統一を図り、**年間工程表を示して、現地講習会やフォーラムなどを計画的に開催。**

■平成27年度に**「青天の霹靂」技術普及拠点ほを13カ所設置**し、**地域農家への特性周知と栽培技術を普及。**また、**現地講習会や情報発信の場としても活用**。

「青天の霹靂」刈取適期現地講習会

普及指導員だからできたこと

・市町村や農協、研究機関等の関係機関を巻き込み、**意思統一して活動ができた。**

・専門的知識やこれまでの信頼関係により**速やかに栽培技術を農家に普及できた。**

青森県

水稲新品種「青天の霹靂」のブランド化に向けた普及活動

活動期間：平成２６～２７年度

１．取組の背景

青森県では、これまで日本穀物検定協会の米食味ランキングで「特Ａ」評価を取得した品種は無かった。

平成２１年に、良食味米生産の意欲が高い農家からなる「ＪＡ津軽みらい特Ａクラス米生産研究会」が設立され、「つがるロマン」による「特Ａ」クラスの良食味・高品質米生産を目指して、現地視察研修会や県外先進地研修の開催、米の食味調査等に取り組んできた。

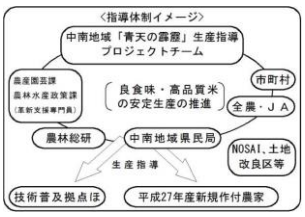
平成２５～２６年に県では「コシヒカリ」並みの極良食味品種を早期に選定するため「あおもり米「特Ａ」プロジェクト事業」を実施し、津軽地域の９カ所で「青系１７２号」と「青系１８７号」の現地試験を実施した。中南地域では、当研究会員６名が現地試験ほを担当し、平成２６年度からは「青系１８７号」（H26 年 11 月に「青天の霹靂」と命名）に絞りこんでさらに施肥改善等徹底した栽培管理が行われた。

「青系１８７号」は平成２７年度デビューを予定しており、良食味米として評価されるよう、その特性を活かした栽培技術のスムーズな普及が求められた。

２．活動内容

（１）関係機関の情報共有体制の構築

平成２７年３月に管内の農協、市町村、青森県産業技術センターをはじめとした関係機関で構成する「中南地域『青天の霹靂』生産指導プロジェクトチーム」を設置し、情報共有体制を整えるとともに、年間工程表を示して、計画的で効果的な活動を展開した。



（２）「青天の霹靂」技術普及拠点ほの設置

平成２６年度までは青森県産業技術センターの施肥設計に基づいた現地試験ほを設置して「青天の霹靂」の追肥や適期刈取り等の生産指導を実施し、翌年度からは地域農家への特性周知と栽培技術普及を図るため、農協と連携して９名の会員に「青天の霹靂」技術普及拠点ほを担当（管内では１３名）してもらい、重点指導を行うとともに、現地講習会やメディアによる情報発信の場としても活用した。特に、平成２７年度は技術普及拠点ほでの田植えや講習会、収穫作業等について、報道機関に情報提供したほか、青森県が開設している「青天

の霹靂」米日記ブログに２３回アップし、現地での生育や作業等の情報を生産者のみならず消費者に対しても提供するよう心がけた。

（３）中南地域「青天の霹靂」フォーラムの開催

平成２６年度は先行事例である山形県「つや姫」の取組の講演や「青天の霹靂」の品種特性紹介、平成２７年度は首都圏での「青天の霹靂」の評価や農家、農協、青森県産業技術センターを交えたパネルディスカッションを主体としたフォーラムを開催し、「青天の霹靂」の作付者や新規作付者の良食味・高品質米生産の意識向上を図った。

３．具体的な成果

（１）念願の「特Ａ」評価の取得

平成２７年２月に「青天の霹靂」が参考品種ながら「特Ａ」評価を取得し、平成２８年２月には本ランキングで「特Ａ」評価を取得した。

（２）「青天の霹靂」の良質米生産の目標達成

平成２７年には、会員の９か所の技術普及拠点ほの玄米タンパク質含有率は、全て出荷基準の6.4%以下を達成し、うち８か所で生産目標の6.0%以下をクリアした。

（３）良質米生産技術の地域への波及と研究会員の意識の向上

技術普及拠点ほ担当者は、地域での新規作付者に対し、「栽培マニュアル」遵守の重要性を啓蒙し、地域の良質米生産への指導的役割を担った。また、「ＪＡ津軽みらい特Ａクラス米生産研究会」は、「特Ａ」評価という目標を達成したことから、平成２８年４月から名称を「津軽みらい農協特Ａ米プレミアム研究会」とし、さらなる食味・品質の向上を目指すこととなった。

４．農家等からの評価・コメント

（「津軽みらい農協特Ａ米プレミアム研究会」会長　工藤憲男氏）

当研究会は「特Ａ」評価取得を目指して設立した研究会です。設立当初より、普及指導員からは先進地の情報提供や現地検討会などで栽培指導をいただき、ありがたく思っています。会員６名が「青系１８７号」の現地試験ほを担当して、普及指導員の指導どおり栽培し、それが青森県で初めての「特Ａ」評価を取得した「青天の霹靂」誕生につながったことを誇りに思います。

今後はさらに付加価値のついた「青天の霹靂」の生産を目指していきますので、今後ともご指導をよろしくお願いします。

５．普及指導員のコメント

（青森県中南地域県民局地域農林水産部　主幹　工藤龍一）

「青天の霹靂」は、長年の普及指導員をはじめ関係者の悲願であった「特Ａ」評価を青森県で初めて取得した。これからは安定した良食味・高品質米生産が求められるため、中南地域「青天の霹靂」生産指導プロジェクトチームが関係機関と連携し、栽培技術指導等を進めていく。

６．現状・今後の展開等

平成２８年度の中南地域における「青天の霹靂」の栽培面積は９４４ｈａ（２７年度は３１７ｈａ）で昨年度の約３倍、作付け者は３８４名で昨年度の（２７年度は１４９名）約２．６倍と大幅に増加したことから、新規作付者に対する品種特性の周知や栽培技術のスムーズな普及を図り、食味や品質の安定と全体的な底上げを図る。